万代長嶺小学校だより

万代長嶺

学校ＨＰ　http://www.bandainagamine-e.city-niigata.ed.jp/

No.116
令和５年４月21日

万代長嶺小が今年度めざす子ども像について(1)

校長　　土田　学

今年、万代長嶺小学校がめざす子ども像の１つに「目標に向かって進んで取り組み自分の成長を自覚できる子」（自己の知）があります。これは、勉強や運動や生活の中で、めあてや頑張ることを決め、それに取り組むことにより、「わかった」「できた」「やりとげた、続けた」と自身が実感できることを増やしていく。そうした実感を通し、自分の成長を自覚できるようにさせることをねらいとしています。

具体的な手立てとして、学校では次のことを行います。

- 様々な活動に取り組む際の、明確な目標をたてることができるようにする
- この学習（活動）ではどのような姿になっていけばよいか、具体的な「学びのものさし」を設定し、教師と子どもたちで共有して学習活動に取り組む。

哲学者岸見一郎氏は、その著書『嫌われる勇気-自己啓発の源流「アドラー」の教え-』の中で、ただ漠然とした高邁な目標をたてるだけでなく、毎日少しでもいいから取り組むこと（数式を解く、単語を覚える）の大切さと、そこには必ず「今日できたこと」があるはずだということを、「どう生きたのか、その刹那を見ていく」という言葉で表しています。

また有名な話では、大谷翔平選手が高校１年生の時に作成した「マンダラート」があります。大谷選手は当時たてた目標（ドラフト１位指名を８球団以上から得る）を実現するために、まず必要な手段（体力づくり、人間性、メンタル）を明らかにし、それを獲得するための具体的な行動レベル（読書、思いやり、あいさつ）まで落としこんで日々の生活を送ったそうです。

日々の学習の中で、様々な学校行事で、子どもたちが「目標に向かって進んで取り組み自分の成長を自覚できる」よう、取り組んでいきたいと思います。